



1. 学会はもっと発言しよう
2. 2月は逃げる
3. 地域暖房

1. 構造力学も進歩し、電子計算機が広く使用されるようになり、どんな複雑な構造物でも弾性的に応力解析が可能になった。また単純な構造物でも各部の応力をあらゆる条件を入れて正確に求めることができるようになった。こういった計算方法、計算能力の進歩に比較して、構造様式のあり方の研究とか、設計法といったものの進歩が遅れているように感じられる。たしかに学問的研究の成果は数多く報告されているが、それらは実際面に反映しているとはいえないようだ。たとえば橋梁を設計する基礎となっている鋼道路橋設計示方書といったものは、相変らず単径間のプレート ガーダーやトラスを主な対象にしており、連続桁にすべての点で適用できるかどうかとも疑問に感じる。

こういった面でも、学会はもっと積極的に発言し、関係協会等にも働きかけ、言葉どおり学会の発展のリーダーとなるべきではないだろうか。またそういった点の討議の場を提供すれば、年次講演会もますます盛会になってゆくと思われる。

[C]

2. 1年の計を正月に立て、さてそれを実施に移すまでは、たとえ仕事の立場は人それぞれ異なっているも、そこには夢があり希望があって胸のふくらむ思いがするものである。しかし、現実には年末から年始にかけての仕事が山積みされ、それらを片付けているうちに2月はさっさと逃げてしまう。昔の人は本当にうまいことをいったものだとつくづく感心させられる。

土木の仕事はその性質から工期が1年で終ることはまずない。それだけに、予算の計画、工程の管理その他もろもろの事柄がからみ合って、理想どおりにはなかなかものごとがはかどらない。結局は長かったように思われた工期もやがて期限にせまられて、しよよせ工事の成果がお目見えする場合がある。

2月は全国的に寒さのもっとも厳しい時期であり、土木材料の大半を占めるコンクリートの打設にとっては最悪条件の月である。すでに温度管理など養生についてはいくつかのアイデアが活かされているが、こうした技術の進歩が悪い条件にうちかかって、安心して現場作業ができる日の一日も早く実現することを願うものである。

[J]

3. 最近よく問題になっていることに公害がある。公害の中の大物としてスモッグがあげられる。スモッグは、都市を重苦しく包み込み種々の害毒を人々に与える。スモッグの大きな原因の一つは煤煙であり、これは工場の煙突やビルとか家庭の暖房装置から排出されるのである。工場の多い大都市では排煙のため煤煙は年中あふれているが、工場は少なくとも冬がくると暖房のため黒いスモッグでおおわれるという都市も多い。煤煙の中の煤塵は人体の中に入って肺や他の呼吸器を侵し、他のいろいろの病気の原因にもなる。このやっかいな煤煙を規制するため「煤煙の排出等に関する法律」等も制定され、各種工場に対し操業の停止とか燃料の転換等の指示もできるようになっている。一方暖房による煤煙を少なくするには、燃料を煙の出ないものにする以外、地域暖房の実施によるのも一つの方法である。すなわち、方々のビルで個別にやっている暖房を止めて、ある地域全体をセントラル ヒーティングに変えてしまうことで、中央の熱供給設備からパイプで熱を各ビルに配給するもので、煙突が1カ所に集中できて煤煙の除去が簡単にできるようになり、防火の点からもまた経済上の面からも非常に有利である。東京では新宿の副都心のビル群に、また札幌では公団住宅等にもこの計画があるようで、今後このような面からもスモッグの少ない、きれいな空への努力がなされることが望まれる。

[S]